

1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	0673200283		
法人名	社会福祉法人 さくら福祉会		
事業所名	グループホームみどり		
所在地	山形県酒田市砂越緑町5-43		
自己評価作成日	平成 22年 2月 17日	開設年月日	平成 14年 3月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-yamagata.info/vamagata/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市檀野前13-2		
訪問調査日	平成 22年 3月 23日	評価結果決定日	平成 22年 4月 13日

(ユニット名 こんぺいとう)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域にある資源を可能な限り利用させていただき、地域住民とのふれあいを大事にしています。認知症であっても、利用者のこれまでの人生を尊重し、自分らしく、自分の暮らしを継続できる様に支援していきたいと思えます

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「いきいきと地域の中でみんな仲良く暮らせる私たちの生活」ホーム独自の理念を正に実践に繋げ、ホームの枠だけに捉われず地域の一員として行事等にも積極的に関わり、さらに年2回「地域だより」を町内会全戸に配布し、日頃より情報発信等に留意しています。既存の建物を改装しているユニットと後に建てられたユニットとの台所等の共用空間を上手く活かしながら、利用者同士の交流の場に繋げるなど活き活きとした「暮らし」を感じます。切磋琢磨しながら向上心を絶やさず、互いに「笑顔」が一番を心掛け、心身共に健やかに、家庭的な和みのある温かさを大切にしているホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の一員として自分のペースで安心して暮らせるように、理念を掲示し管理者と職員が共有しながら実践しています。	職員で作上げたホーム独自の理念をネームプレートや、常に見える所に掲示し、地域の中で「笑顔」を絶やさず安心して暮らせるよう、互いに確認し合い意識を高めながら取り組みをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の清掃、夏祭り、運動会、文化祭等に参加しています。また、小学生、中学生、高校生の職場体験学習も積極的に受け入れをしています。	町内会に加入し、レクリエーション大会やいも煮会又、文化祭には地区の他に利用者出身地区にも刺子や手編み、折り紙等を展出し行事等に積極的に参加している。ホーム主催の夏祭りや健康教室への呼びかけ、傾聴ボランティア等を受け入れ幅広く地域の人達との触れ合いに努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の集会や事業所の行事に招待等で地域の高齢者に関わりながら、認知症ケアについて、情報提供をしています。	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、年度初めに会議の年間の議題を計画し、意見交換したり、法改正、事業所の活動内容等を報告しています。検討事項では、意見を参考にしながらサービス向上に努めています。	事業所からの現状や地域交流状況等の報告しながら定期的に開催している。災害対策等の話し合いを行ない、ホームの体制や地域との連携について具現化するための意見等が出され、次回に向けての検討課題とし継続して話し合いを持つことにより、サービスの質向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員の受け入れや酒田市の連絡協議会に加入し連携を図っています。	市のサービス事業所連絡協議会出席や介護相談員の受け入れ、市の担当者の推進会議への参加等を通し、その都度連携を図り共通理解を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかける工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	職員会議・ミーティング時に勉強会を行い、身体拘束行為を理解し、安全・安心を確保しています。	一つひとつの場面に添った事例を勉強会に取り入れ、玄関にはセンサーチャイムの設置や30分置きの所在確認等を行ない、鍵をかける工夫や共有認識を図り、生活のリズムに添った支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、虐待の概要、事例を学び管理者、職員がお互いに注意を払っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加したり、資料を職員へ配布し職員会議で勉強会を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時は説明書を読みながら、不安点、疑問点を伺いながら丁寧に説明しています。料金改定時も資料を提示し、理解と納得を図っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を定期的に行い、意見、要望を出していただいたり、運営推進会議で話し合いをし、何でも言い合える機会を作っています。	玄関には意見箱を置き聴く場面作りをしている。面会、来所、家族会等時に意見、要望等を言える雰囲気作り心掛け、出された要望等はケース記録に残し、職員はミーティング等で話し合い共有を図り、日々のサービスに努めている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティング、職員会議等で意見や要望を聞き、全職員で検討し取り入れていくようにしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談を設け、勤務状況を把握したり、資格取得に向け、研修の場を設け向上心を持って働ける環境整備に努めています。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者・職員は法人内外の研修会に参加しています。内部研修では、計画的にテーマを決め勉強会を行い、人材育成に努めています。資格取得に向けた勉強会も支援しています。	庄内地区グループホーム連絡協議会や法人内、独自の勉強会を定期的に行ない、研修報告書は閲覧出来るようにしている。職員は係りや委員会にそれぞれ属し、利用者との関わり方にきめ細やかな配慮と気づきを大事とし、スキルアップに努力している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	山形県、庄内地区のグループホーム連絡協議会に加入し、研修会に参加したり、交換実習で勉強したり、お互いにサービスの質の向上に取り組んでいます。	県や庄内地区グループホーム連絡協議会の研修や交換実習に参加し、情報交換等を行ない、日々のサービスの質向上に繋げている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接を行い、生活や心身状態を把握し、ご本人に要望を聞いたり、利用者によっては、事前に見学に来て頂き、安心して利用できる様に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の苦労や不安など状況をしっかり聞いています。ご家族の要望や相談内容を聞き、今後、どのように対応していくか話し合いをします。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の思い、状況を確認し、早急に対応が必要な方には、居宅介護支援事業所、他の事業所のサービス利用に繋がるように対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩として、お互いに支えあう事で畑作りや家事作業、季節行事など、利用者から教えていただいています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の生活状況や心境などを連絡し、ご家族からの協力で、利用者の精神安定が図れるように努めています。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一人一人の馴染みの場所や人を把握し、外出したり、友人の面会時には、ゆったりとくつろげる場を提供しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の食事やお茶のみ時間は、職員も一緒に入ったり、作業や余暇活動時にも、利用者同士の関係が円滑にできる様に支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も医療機関や他事業所と情報交換を行い、介護サービスがスムーズにいくように支援しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で触れ合う機会を多く持ち、希望や思いを把握するように努めています。言葉や表情、態度等からも、思いを察し確認をするようにしています。	「笑顔」を何よりのサインと捉え、心身の状況の変化を見逃さないよう、一人ひとりの思いに添い生活支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人、ご家族から聞き取りをしています。利用後も、ご本人の話の中や、ご家族の面会時に聞き、把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自宅での生活スタイル・暮らしぶりを理解し、出来ない事より、できそうなことを見つけ、本人本位の生活をして頂いています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族からは、意見や思いを聞き、職員でカンファレンスを行い、介護計画を作成しています。	利用者や家族等の意向を取り入れ、担当職員を含めユニット会議や職員会議で気づきや情報等の話し合いカンファレンスを行ない、出来ていることは継続して出来るよう見直し等を確認し合いながら介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活状況、認知症状を具体的に記録しています。職員間の情報共有を徹底し、介護計画の見直しに役立てています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人と地域の様々な関わりを見つけ、地域の公民館、図書館、警察、消防署等より協力して頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	入所時に係りつけ医を継続するか、事業所の協力医に変更するかを決め、通院介助も家族からも協力して頂いています。主治医の指示のもと健康管理に努めています。	希望するかかりつけ医等で受診し、協力医による毎月の往診では、利用者の半数の人が診てもらっている。歯科等の専門医の受診は職員が通院介助をし、受診結果や生活状況を連絡し合い、家族や医療機関等と協力関係を結んでいる。職員は申し送り時や業務日誌等で共有を図っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	週1回非常勤の看護師を配置し、一人一人の健康管理や医療的な支援を行っています。看護師がいない時は、電話連絡し相談できる体制を取っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はご本人の支援方法に関する情報を医療機関に提供しています。状況把握のため、職員が面会にいきます。医療機関、家族と情報交換しながら、回復状況を確認し、速やかに退院できるようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う意向確認書を作成し、事業所が対応できる最大限の介護について説明しています。重度化した場合、ご家族、係りつけ医と話し合いを設け、特別養護老人ホームへ入所申し込みするなど、対応しています。	入居時の段階で、意向確認書を作成し同意書を得ている。看取り、介護ケアの研修会に参加し、状況変化に応じ法人全体で協力体制をとり、事業所として出来得る最大限の対応をしている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の勉強会をしたり、緊急時対応マニュアルを活用しています。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間設定で年3回実施計画を立て、地域の消防署と連携して行っています。運営推進会議の委員からも参加して頂き、意見を頂いています。	消防署の協力の元、7月、11月に日中、夜間想定での防災、召集、避難訓練等を実施し、運営推進会議のメンバーより訓練状況等を見てもらい助言をもらっている。非常時に備え、缶詰、乾パン、レトルト食品等を準備している。来年度に向け、地域との協力体制作りや深夜訓練等を検討中である。		運営推進会議等で検討されているが、今後はさらに、あらゆる場面を想定し地域の協力や関係機関等に働きかけ、災害対策に取り組まれる事に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議や毎日のミーティング時に、職員の意識向上を図っています。利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応を徹底しています。	利用者の立場になり、小声で話したり一つひとつの場面にさりげない声掛けを心掛けている。「個人情報保護法」についても話し合い事業所全体で研修に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせた声掛けを行い、希望、嗜好、行きたい場所、やってみたいことなど聞き、可能な限り対応しています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課はありますが、時間を区切った過ごし方はせず、一人一人の体調、状態にあわせ、その時のご本人の気持ちを尊重し個別ケアができるように柔軟に対応しています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類はご本人の好みにあった服を職員と一緒に選んでいます。理容は、馴染みの床屋に行ったり、訪問理容にて、希望にあわせたカットをしてもらっています。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の献立を参考にし、行事食、郷土料理、旬の物など取り入れ、利用者職員で協力し、調理、盛り付け、片付けを一緒にし、和やかに食事の時間を楽しんでいます。	法人の献立を基本に、一人ひとりの好みや苦手な食材を把握し、行事食等を取り入れながら、ホーム独自のメニューを作っている。食事の準備等の一連の作業は出来る範囲で一緒に行ない、食前には皆で嚥下体操をし、利用者と職員は共に食卓を囲み楽しみながら一緒に食事をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取量、水分摂取量を記録し職員全員が把握できるようにしています。一人一人の体調、嗜好や習慣に合わせた支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を職員が理解し、毎食後の歯磨きやうがいの声掛けを行い、能力に応じ職員が見守ったり、介助を行っています。夜間は義歯洗浄剤を使用し衛生面にも、気をつけています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックの記録を行い、一人一人の排泄パターンを把握し、声掛けや誘導を行ったり、排泄サインを見逃さず、トイレ誘導を行っています。	一人ひとりの身体状況に合わせ、トイレ誘導の際は耳元で話しかけ、さりげない言葉がけに配慮し安心してトイレでの排泄が出来るよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品を取り入れています。毎日の体操や家事作業等により適度に身体を動かす機会を作り、自然排便ができるように支援しています。慢性的な便秘の方は主治医の指示のもと、下剤を処方してもらっています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日や時間帯の入浴希望を確認し可能な限り、ご本人の希望に沿うように支援しています。	利用者の生活習慣や希望に合わせ、柔軟な関わりをしている。拒む人には無理強いせず足浴の促しや時間を変えたり、タイミングを図りながら声掛け等に工夫し、入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活リズムを把握し状態に応じて休息したり、眠れない時は、お茶のみや話し相手になる時間を設け、安心して過ごせるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤の説明書を個人ファイルごとに綴って、職員が内容を把握できるようにしています。状態変化が見られたときは、記録をとり、主治医、看護師との連携を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人一人の趣味や興味に有る事、生きがいなどを把握し、利用者が喜んで、楽しめるような活動(生活リハビリ、趣味、地域行事参加等)を支援しています。作業をしてもらったときには、感謝の言葉を伝えています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望や気分に応じ、季節を感じて頂けるように、散歩、買い物、地域行事、ドライブ、床屋等に出かけています。	利用者との会話の中から思いを引き出し、一人ひとりの希望外出に添いながら出かけている。地域の行事、夏祭りやいも煮会、運動会にも参加し、気分転換を図っている。又、困難な方には、車椅子での外気浴を促し、積極的に外に出る機会を作っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からの預かり金は責任持って収支管理をしています。ご家族の協力のもと、小額のお金を持っている方もいます。買い物楽しみも自分で行えるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に応じ電話をかけたり手紙が出せるように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者同士が気兼ねなく過ごせるように、椅子、テーブル、ソファの配置に配慮しています。季節の花を飾ったり、写真を掲示し話題作りに努めています。	ホールの高窓から陽光が入り、明るく広々とした対面式の台所からは、調理時の匂いや音がフロア全体に広がり、家庭的な雰囲気となっている。絵手紙、写真、おひな様、ちぎり絵等が飾られ、ゆったりと過ごせる共用空間となっている。トイレや浴室には、手摺、すべり止めマット等に配慮し、安全性に留意している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルを置き、一人でゆったりと過ごしたり、利用者同士でくつろげるように、居場所を工夫しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の心身状態に合わせ、畳を使用しています。使い慣れた家具、生活用品、仏壇等を持ってきて頂き、安心して過ごせるように努めています。	居室のレイアウトは、利用者の身体状況や希望に合わせ、安全面に配慮している。光が差し込む格子の引き戸、和紙使いの障子戸もあり、居室には洗面台が付いており、慣れ親しんだ物を持ち込み、居心地よく過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人が解るように表示したり、置き場所を工夫したり混乱や失敗しないように配慮しています。		